

令和5年度 江戸川区立南葛西中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	人権尊重の精神を基に国際社会に貢献できる日本人の育成	目指す学校像	学校像>>生徒の能力を高める資質の向上をめざす学校・大学までつながった保護者、地域から信頼される学校・教職員も資質の向上をめざし、高め合い、協力的に協働できる学校
	1 学びつづける人 2 思いやりのある人 3 心身の健康に努力する人	目指す児童像 目指す教師像	<生徒像>>人権意識、思いやりの心を持ち、自己を大切にしながら他者も尊重できる生徒・自分の目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒・地域の一人としての自覚をもち、地域を大切にす生徒・「南中プランを常に胸に刻み、規範意識の徹底を図る生徒・自ら目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒・「南中プランを常に胸に刻み、規範意識の徹底を図る生徒・自ら目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒・地域の一人としての自覚をもち、地域を大切にす生徒・一人一人の理解を深め、生徒のより良い育成に使命を持って取り組む教師・組織の一員としての自覚を持ちながら学校としての課題の克服に、意欲的に取り組む教師・教育公務員としての責任ある言動の履行を厳守し、説明責任を果たせる関係者を実現する教師・日常の授業を大切に、主体的に学びに向かい授業を行うための研修を随時行う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>数学・英語の習熟度別少人数授業を行ったことで、生徒の学習意欲が高まった。学習用タブレット端末を効果的に授業で活用し、生徒の学習意欲を引き出すことができた。支援が必要な生徒に対する研修会を実施したことでユニバーサルデザインの視点を取り入れた対応について、理解が深まった。関係諸機関と情報共有できたことで、効果的に支援をすることができた。 <課題>放課後の時間を活用し、補習を実施するなど、学力向上に向けた取り組みを進める。教室を図書館司書と協力し、学校図書館の整備を進める。SSW等と協力して不登校生徒一人一人に寄り添い、登校を促していく。部活動指導員を活用し、教員の負担軽減を進める。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・習熟度別少人数授業(数・英)の実施 ・一人1台端末の授業内での効果的な活用 ・外部委託による放課後補習教室の実施(数・学) ・放課後補習教室と教科授業との効果的な連携 ・江戸川っ子StudyWeekの実施	・2月末実施の到達度テストにおいて、前年度以上の結果 ・教員取組評価肯定回答80%以上 ・毎時間授業で活用し、生徒の満足度80%以上 ・年間150回の実施と対象生徒の学力の10%向上 ・各学期7日間の生徒実施率90%以上	A	B	○放課後に行っている補充学習の取組は、順調に進んでいる。 ○一人1台端末は、全ての教科で効果的に活用できている。 ●目標達成に向けて、引き続き取り組んでいく。	A	具体的な目標をしっかりと設定し、取り組んでいる。目標が達成でき、継続してほしい。	ほぼ予定どおり進んでいる。目標が達成でき、引き続き取り組んでいく。
	<読書料の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書料による活用…各学年5～10回 ・学年ごとにテーマを決めた探究的な学習活動の実施 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・各教科による学校図書館を使った授業の実施 ・「読書料」についての情報共有及び深化	・活用率80%以上 ・学年ごとに行事と連携し、個人でテーマを決め取り組む ・年間22回実施 ・各学期1回以上 ・取組評価肯定回答80%以上	C	C	○学年の行事と連携して探究的な学習を実施できた。 ○司書の協力を得て、整備を進めている。 ●各教科での活用を進める。 ●読書料についての情報共有を進める。	B	教員が多忙であり、十分に取組めない状況は理解できる。図書館の良いところを生徒に伝え続け、タブレット端末だけでなく、図書館の活用についても進めて行ってほしい。	委員会活動とも連動させ、読書及び図書館の利用について情報提供することで、まず、個人的な利用の促進を図っていく。
			0	0	0	0			
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会を実施し、生徒の体力向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める	・新体力テストにおいて、全学年都の平均以上の成果を出す ・ロードレース大会の完走者90%以上	A	B	○授業等での補強運動の取組はできている。 ●結果を分析し、次年度に生かす。	A	ロードレース大会の取組実績には感心した。部活動等とおして、達成感をもたせるとともに、体力向上を進めてほしい。	ロードレース大会に向けて、生徒に意識付けできたことは良かった。目標を達成するとともに、達成感をもたせることができた。
			0	0	0	0			
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・メンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援委員会隔週1回の実施 ・SCによる研修会の実施 ・臨海青海特別支援学校、鹿本特別支援学校との交流	・情報共有し、全教員で取り組む ・SCによる研修会年1回実施 ・各学期1回の交流の実施	A	B	○隔週に1回、委員会を実施し、情報共有を行うことができています。 ●SCによる研修会を実施する。	A	共生社会の実現に向けて、様々な交流を行っており、情報共有も進んでいる。	情報共有はできている。引き続き全員で特別支援教育を行っていき。SCの研修会を行うことができていない。改めて時間を設定できるよう検討する。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyspaer-QUの活用	・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・生徒一人一人に寄り添い、状況把握に努めるとともにSCなど外部の機関につなげる ・学級だけでなく学年や学校で情報共有して活用していく	・不登校生徒に対して、週に1回程度、家庭連絡を行い、必要に応じて家庭訪問を実施する ・SC相談件数の昨年度比増加 ・研修会を実施し、活用を深める。	A	A	○子どもの権利条例について、講演会を行うことができ、理解が深んだ。 ○SCの勤務を工夫したことで、相談件数が増加している。 ○hyspaer-QUについての研修を行ったことで、教員の理解が進んだ。 ●不登校生徒との関係を切りやすいよう対応する。	A	不登校生徒への対応について、よく取り組んでいる。SCの研修会については、保護者に対する啓発を続けてほしい。	hyspaer-QUの研修を行い、理解が進んだため、生徒への対応に生かすことができた。引き続き丁寧に対応していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・すべての教員が更新できるようにスキルアップを図る ・設定した公開期間に学校公開を実施する。	・1週間に1回は更新し、情報発信を行う。 ・年4回実施する。	A	A	○各教員がホームページを更新できるようにしたこと、担当者のスキルが向上した。 ○予定どおり学校公開を行っている。 ●担当者以外のスキルをアップさせる。	A	目標にしたがって改善が行われており、適正に取り組んでいる。	時期により差はあったが、学校公開を実施し、多くの保護者に学校の様子を見てもらえたことは良かった。ホームページの更新等の頻度を上げ、情報発信を行っていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学期ごとに学校関係者評価委員会の実施 ・保護者・生徒アンケートの実施	・学校関係者評価委員会年3回の実施 ・学校に対する満足度を80%以上とする	A	B	○予定どおり委員会を行っている。 ●アンケートを行い、満足度を検証する。	B	委員会の開催やアンケートなど、目標に従って具体的な取組を実施している。	方法を変えたため、アンケートの回答率が低かった。改年度は、事前周知を徹底し、回答率の向上を図る。アンケートから、生徒は概ね満足しているが、保護者からは、情報発信の要望等があった。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日を設定 ・SSS、副校長補佐を活用し、職員の業務軽減を図る ・部活動指導員、外部指導員の活用促進	・月に1回定時退勤日の実施 ・教員の満足度80%以上	A	B	○外部人材の活用により、業務軽減は進んでいる。 ●勤務時間の短縮につなげる。	A	短期間では実現が難しい課題に、継続的に取り組んでいる。	少しずつではあるが、時間に対する教員の意識は変わってきている。
	持続可能な社会の担い手を育むため、教科等横断的な視点に立った実践の推進	・SDGsへの取組を中心とした、研修とその実践 ・区SDGs推進センターと連携し、取組に参加する	・生徒への取組を各学期1回実施 ・生徒の取組を80%以上とする	B	B	○前電や残業減にはよく取り組めた。 ●SDGsへの意識啓発を行う。	A	17個の目標が、階段など見えるところに掲示してあり、生徒が普段から意識できるようにしている。	引き続き、生徒に働き掛け、身近なところから取り組めるようにしていく。